

## 華道体験～ボランティア部～

“自分たちの生けたお華で来校される方々に癒やしを・・・”という発想で華道家 池坊 糸井知里先生に生け花を御指導いただき、第2回学校説明会やお魚 MAP レストランでお花を展示しました。自分たちが管理しているお花を使っただけの“生け花”で和やかな時間を過ごしていただけた、また、季節を感じていただけた、生徒たちの自信につながっています。10月2日(金)の活動では、これまで自分たちで育ててきたフジバカマと日々草を中心に「秋」を演出しました。



今後も継続的に活動を続け、スキルアップを目指します。

## はじめての航海

9月16日(水)～22(火)、航海船舶コース2年生19名が、本校実習船「みずなぎ」258トンを用いた国内航海実習に取り組みました。この実習は、本校を出発し、日本海を西に進み、関門海峡を通過して瀬戸内海に入り、大阪南港に至り、同じ航程を往復するものです。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前半と後半の2班に分けて、大阪南港で乗り換えることで密を避けました。5月に予定していた底曳網漁業実習が中止となり、2年生にとっては初めての泊を伴う乗船実習となりました。夜間0時～4時の航海当直(ワッチ)や、揺れる船内での食事当番など、普段の生活とは全く異なった厳しい環境での実習を経験しました。また瀬戸内海航行中には多くの大型船舶と行き交い、夜間の灯火や昼間の形象物、航路標識や潮流信号所等を確認することができ、教科書の白黒写真ではなく実際のフィールドで直接体験することで、深い学びにつながりました。荒天のため、帰路の日本海は大時化となり、多くの生徒が酔いすることになりましたが、船の安全運航のために乗組員の皆さんと心1つとなって協力して乗り越えることができました。3泊4日という短い期間でしたが、参加した2年生は船員として働く楽しさや厳しさを知り、自らの将来展望について考え、大きく成長することができました。



## 海洋グルメ～本格ピザ～

本校には、年10日間程度、現場のシェフの方々に来校していただき、料理技術やコンテスト出品作のアドバイスを教えていただいています。今回のレシピは、元宝ヶ池ホテル総料理長神田正幸シェフが考案されたものです。季節によって鮭フレークやアサリなど、トッピングを変えることができるプレーンピザです。



- 材料(プレーン1枚)○  
 強力粉 120g 薄力粉 60g 砂糖 3g 塩 4g  
 インスタントドライイースト 3g 牛乳 20cc  
 めるま湯 100cc ニンニク1片 玉ねぎ 0.5個  
 トマト缶(カット) 100cc、とろけるチーズ 適量  
 オリーブオイル、バジル、お好きなトッピング
- 作り方○  
 ①少しのめるま湯にドライイーストを溶かし、予備発酵させる。  
 ②薄力粉、強力粉、砂糖、塩を混ぜ合わせ、残りのお湯と牛乳で捏ねる。  
 ③①を入れてしっかりと捏ね、20分程度発酵させる。  
 ④ニンニクと玉ねぎはみじん切りしてオリーブオイルで炒め、トマト缶を入れ、しっかりと煮詰める。  
 ⑤③を薄く伸ばし、④を塗り、トッピングする。  
 ⑥チーズを振りかけ、180℃で15分加熱する。

### ○卒業生からのメッセージ○

東海大学海洋学部海洋文学科4年池内雨音さん(白糸中学出身)平成28年度卒  
 私が京都府立海洋高等学校(以下 京都海洋)に入学したきっかけは、中学2年生の後半頃にあった学校説明会でした。その説明会は、京都府北部の高校から先生が中学校へ来て、それぞれの高校の説明をするものでした。当時、私は特に将来の夢が無く、高校進学も皆と同じ普通科に行こうと思っていました。そう思う中でも「人とは違うことがしたい」という気持ちもありました。そんな時に説明会で、京都海洋の存在を知りました。そして、学校紹介のスライドを見て衝撃を受けました。それは、ヨットとイルカが写っている写真でした。「私もイルカと一緒にヨットに乗りたい」「普通ではない高校生活を送りたい」と思い、京都海洋を志望しました。元々、私の母親が海上自衛官で、私自身、幼い頃から船に乗って海に出るといった経験はあり、海は大好きでした。そういう面からも、京都海洋を志望することとなりました。

高校生活では、私はヨット部に所属しました。マリンスポーツの部活動に所属できるのも、京都海洋ならではの魅力です。京都海洋らしい部活動に所属したこともあって、日々の活動は充実したものでした。やるからにはしっかりとやり遂げたいと思っていただけ、大きな大会を目標に、毎日、船を出していました。その甲斐あって、高校2年生の時に和歌山県で行われた、国民体育大会に京都府代表として出場することができました。それだけでなく、入学するきっかけになったイルカと並走するという夢も叶いました。

京都海洋は普通科とは違い、さまざまな資格を取得することができます。海関連では小型船舶操縦士や無線、その他には食品関連、情報関連など就職に有利となる資格を多く取得することができます。もちろん、取得必須のものもありますが、自分が取りたい物を取りたいだけできます。私は、海関連だけでなく食品や溶接、クレーンなどさまざまな分野の資格を取得しました。

私が在籍していた海洋科学科では、牡蠣・ナマコ・海ごみのどれかを選択して研究し発表する授業がありました。私は、海ごみを選択し、マイクロプラスチックやレジンペレットといった海洋に広がる海ごみを調査しました。当初は大学進学に興味は無く、高校卒業後、直ぐに海関連の職に就職しようとしていました。しかし、当時の担任に「この大学に行ってみないか?」と言われたのが、東海大学海洋学部です。実際にオープンキャンパスに参加すると、これまでの高校生活で学んだことが活かせることができる大学だと思い、私は志望しました。

そして現在、東海大学海洋学部海洋文学科の4年生です。高校生活で培った知識や経験を基に、早くに卒業単位を取得することができました。また、コロナウイルスの中、無事に就職活動が終えられ、自動車メーカーのマツダ様より内定をいただきました。

海洋高校は、「将来の夢が明確でなくても良い」「人と違う道(分野)で人と差を付ける」「資格取得してスキルアップできる」「将来への視野が広がる」学校です。



### ○在校生からのメッセージ○

海洋科学科 2年 田中 葉円(豊中市立第十四中学出身)  
 私は幼い頃から水族館に行っていて、将来の夢は飼育員になることでした。そのために、水産について詳しく知りたいたいと思い、海洋高校への入学を決めました。実際は、入学すると、深さ10mもあるプールでダイビングや実習船「みずなぎ」での実習ができました。これらは、普通科では学ぶことができない内容です。

1年生では、広い範囲の基本的なことを教わります。2年生から興味のある内容や進路先のことを考えて5つの学科・コースに分かれます。私は、コースを選択するときに、どのコースにするか悩みました。ですが、担任の先生との面談、それぞれのコースの先生から説明を聞き、安心してコースを決めることができました。

また、私は下宿生活をしています。下宿では、同じ下宿生と一緒に遊んだりしてたくさん思い出を作ることができ、自立した生活を送ることができます。どうしても生徒だけになると、勉強しなくなり、ごろごろしてしまいがちになります。そのため、積極的に計画を立てて、健康的な体作りを心がけています。部活動では、私は、カッター部に所属しています。カッターはマイナーなスポーツなので、最初からうまく漕ぐことはできません。私は、部活動の練習中に何度も失敗して先輩に迷惑をかけ、自信を失いました。それでも先輩は、優しく声をかけてくださり、一緒に頑張ってくれました。そのおかげで、今は、部活動を自主的に参加できています。このことから、協力することの大切さを学びました。それから、周りに目を向けられる人になりたいと思いました。

私は、海洋高校で身に付けた知識と技術を活かして、大学に進学したいと考えています。勉強はあまり好きではありませんが、将来のため、今できることは、学力を伸ばすことだと考えています。進路先を決定するのは自分自身ですが、海洋高校の先生と一緒に考えてくれて応援してくれます。私はこれが海洋高校の魅力の1つだと感じます。だから、わざわざ遠く離れた海洋高校に通うことに後悔はないです。



## 今月の風景～文化委員から～

今月から、後期の文化委員の作品になりました。前期に引き続き、海洋高校の良さがすべて表現できる「日常の1枚」を目指して頑張りますのでぜひご期待ください。



「秋の訪れ」田原輝大 「夕方と秋桜」升田実梨(長岡第三中学出身) (栗田中学出身)

## 今月の1枚<マリンバイオ部>



ミサキウバウオ

10月1日(木)、本校棧橋で行っている魚類相調査中に、府での採集記録がなかったミサキウバウオを1個体採集しました。本種は吸盤状の腹鰭を持つなどの特徴があり、主に暖かい浅海の岩礁域やタイドプール、サンゴ礁域に生息し、全長は6cm程です。日本海側での採集記録は山口県、島根県となっており、ウバウオを専門に研究されている方に話を伺うと、ミサキウバウオの新たな分布情報として非常に価値のある個体であるということでした。

## 実習レポートから

- 3年「総合実習」■10月3日(土)
- 食品経済コース3年■杉本 菜摘(加悦中学出身)
- 実習内容 学校説明会 ■目標「常に笑顔で」
- 何回も学校説明会にスタッフとして参加させていただき、いろいろな人と話すことで、海洋高校を知ってもらえることはとても楽しいと感じました。あと1回の説明会も頑張って学校の良さを伝えていき、人気のある海洋高校にしていって、「母校を発展させるためにがんばらないと!!」と思います。役に立って感謝される人に、人を笑顔にさせられる人になりたいと改めて思いました。

## 校長室より

限られた紙面からではありますが、多彩な教育活動の内容と、イキイキとした生徒たちの様子が伝わればと思います。記事にもありますが、実習船「みずなぎ」は航海実習以外にも活用されます。定点で水温や塩分濃度を測定する海洋観測、底曳網漁業実習、マイクロプラスチック調査などです。

海洋観測の結果は公表され漁業者に有益な情報をもたらす、底曳網で漁獲される未(低)利用魚は活用の工夫が新しい研究の切り口になります。マイクロプラスチック調査は海洋ごみ問題やレジ袋の有料化ともリンクし、地球の未来や私たちの生活とつながっています。海での実習は厳しい側面がありますが、とても有用であることを誇りに思い、社会とのつながりを意識しながら深めてほしいと願っています。